

「人をつなぐスキルアップ研修会～体験活動の技法を用いて～」

自然体験活動指導者（NEAL リーダー）養成研修

1 趣 旨

全国体験活動指導者認定委員会が制定した「自然体験活動指導者養成カリキュラム」に則り、体験活動の技法を用いて、対象者に応じて安全に指導ができるようにするとともに、指導者として人づくりに係る能力・資質を醸成する。

2 事業の概要

(1) 期 間

令和6年9月21日（土）～9月23日（月・祝）＜2泊3日＞

(2) 会 場

国立三瓶青少年交流の家

(3) 後 援

島根県教育委員会

(4) 対 象

自然体験活動に興味がある方、自然体験活動指導者になりたい方（18歳以上）、
青少年教育に係る指導員やリーダー

(5) 参加者

11人（社会人8人、大学生3人） 募集15人程度（応募：11人）

(6) 講 師

ア 堀江 清二 氏（まなび工房代表）（講義・演習①～⑨）

イ 佐藤 しのぶ 氏（くにびき自然学校代表）（講義・演習①～⑨）

ウ 主任講師 国立三瓶青少年交流の家 西川 和志（ガイダンス①・②）

(7) 日程・研修内容

☆：法人ボランティア登録必須科目（希望者）

【1日目：9月21日（土）】

9：30～10：00	集合・受付
10：00～10：30	開講式・ガイダンス①(0.5h)
10：50～12：20	講義・演習①「自然体験活動の技術①」（1.5h） 昼食・休憩
13：30～17：00	講義・演習②「自然体験活動の技術②」（3.5h）
17：30～19：00	夕食・入浴・休憩
19：00～20：30	講義・演習③「青少年教育における体験活動」（1.5h）
21：00～22：15	情報交換会（自由参加）
22：30～	就寝

【2日目：9月22日（日）】

9：00～10：30	講義・演習④「自然体験活動の技術③」（1.5h）
10：30～12：00	講義・演習⑤「自然体験活動の指導」（1.5h）
12：00～13：00	昼食・休憩
13：00～17：00	講義・演習⑥「自然体験活動の安全管理」（4.0h）
17：00～19：00	休憩・夕食・入浴
19：00～20：30	講義・演習⑦「対象者理解」（1.5h）
22：30～	就寝

【3日目：9月23日（月・祝）】

9：00～12：00	講義・演習⑧「自然体験活動の特質①」(3.0h)
12：00～13：00	昼食・休憩
13：00～15：00	講義・演習⑨「自然体験活動の特質②」(2.0h)
15：00～15：30	ガイダンス② (0.5h)
15：30～16：00	認定試験(0.5h)
16：10～16：45	事務手続き・閉講式（振り返り）
16：45～	解散

3 事業の特色

(1) プログラムデザインと企画のポイント

ア この研修会では、研修会終了後の参加者の姿を次のようにイメージしてデザインをした。

- ① プログラムのねらいを理解し、参加者及び担当するグループメンバーの支援を行うことができる。（プロセスとコンテンツを理解できる。）
- ② 参加者及び担当するグループのメンバーの安全に留意することができる。
- ③ 体験学習法について触れ、意識できるようになる。

以上の姿をもって、指導者としての土台を築くことを目指した。

イ 初日の午前・午後は、参加者を2つにグループ分けして「指導者視点」ではなく「参加者視点」でアクティビティを行うことにより、メンバー間のつながりを深め、2泊3日を共に学び合う意識を育てることができるようデザインした。また、2日目以降から指導者視点に切り替えることにより、実際の体験を通して学びを深めることを目指した。

2日目の夜の活動から最終日にかけては、今までの学びの総まとめの要素も含め、実際にプログラムの企画を行うようにした。各班が企画したプログラムを実際に行い、プログラムのねらい等について共有することにより、指導者としての視点を意識できるようにした。

(2) 運営のポイント

ア 活動ごとに振り返りを行い、知識の整理だけでなく参加者同士で学びを深める時間を取り入れた。

イ 企画を自分たちで考える際は、グループを3班に分けて少人数編成にすることにより、提案についていくだけの人が出ないようにした。

ウ 研修会名については、「自然体験活動指導者養成講座」ではなく、「人をつなぐスキルアップ研修会～体験活動の技法を用いて～」として広報した。研修会名から連想する内容と実際の内容が乖離しないようにするため、研修内容に合わせた研修会名とした。

(3) 広報のポイント

ア 公益財団法人ふるさと島根定住財団の定期刊行物への同封送付を活用し、島根県内のNPO団体（約280団体）、公民館（約300団体）、地域づくり団体（約120団体）、公益法人・公共施設（約40団体）に送付した。

4 参加者へのアンケート結果

(1) アンケートの集計 (%)

	満足	やや満足	やや不満	不満
事業全体	100	0	0	0
プログラム	100	0	0	0
運営	100	0	0	0
職員の対応	100	0	0	0

(2) 参加者の声

- 「この研修のメンバーで体験や企画をすることをとおして、価値観や考えが人それぞれだと改めて感じるとともに、それが面白い！と思いました。」
- 「学びばかりで、昨日の自分には戻れないというほど衝撃的な体験でした。キャンプネームでは、初めて上の世代の方を<さん>や<先輩>という上下関係なしで呼び合うことを経験し、新鮮でした。」
- 「最初は何をするのだろうと不安でしたが、アイスブレイクや体験をする中で、打ち解けて活動しやすくなりました。このことで、体験・アクティビティをすることは心も解放（開放）することができるんだなあと感じました。」
- 「この研修に参加し、改めて自然体験活動を行う難しさ、知識だけでなく実践を通して学ぶ重要性を知りました。」

5 成果と課題

《成 果》

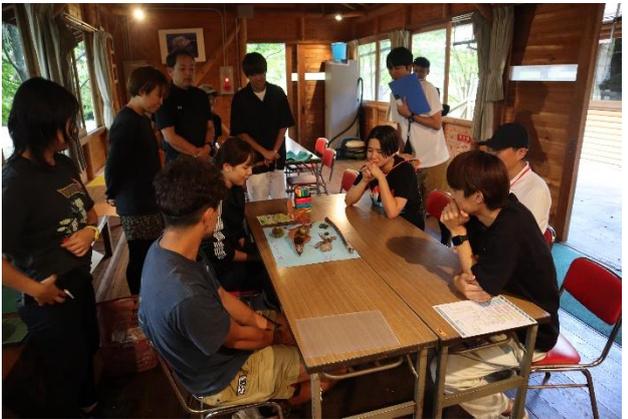
- 本事業のねらいの一つにプロセスコンテンツを理解することを掲げていた。テスト結果や振り返りの実践場面では、プロセスに着目した振り返りの記述や発言ができており、参加者に対してプロセスとコンテンツの理解を定着することができた。
- 研修の最終日に行った「企画」の部分では、同じ班の仲間同士で学んだ知識を活かしながら、より良いプログラムになるよう工夫していた。また、フィードバックの時間において、活動についてどういったねらいがあったのか確認してお互いを高めあう姿が見られた。
- 近隣自治体からも参加があり、自然体験活動の安全管理における職員研修の機会として活用されている。

《課 題》

- 募集定員を15人程度としていたが、申し込みが11人と定員を下回ってしまった。アンケートの結果では満足度100%の評価を得ているため、いかに研修会の内容を伝えて周知するかが今後の課題といえる。

【活動中の様子】





(担当：企画指導専門職付主任 西川 和志)